



聖週間典禮

# 御苦難の第一主日 または「枝の主日」

Dominica secunda Passionis seu in Palmis

## 一 級

この祝日の祭式は二部に分かれている。その第一部は枝の祝別式と行列で、第二部はミサ聖祭である。

改正聖週間典礼によれば、第一部は「王たるキリストをたたえる莊厳な行列」と題され、信徒が祝別された枝を手に持ちながら、王たるキリストに忠誠を表わすべき、愛と感謝との業である。その式の莊重な氣分をいや増すために、従来の紫色に代えて、これからは赤色の祭服を用いることとなつた。第二部すなわちミサ聖祭に用いる色は、四旬節の精神に従い紫である。

## 王たるキリストをたたえる莊厳な行列

### (1) 枝の祝別

*De benedictione ramorum*

枝は棕櫚かカンランの枝を本式とするが、それがない場合には他の木でもよろしい。そして祝別式の間は信徒がそれを手にもつか、または聖堂内陣すなわち祭壇と聖体拝領台との間におかれたテーブルの上にのせておく。祝別する司祭はこのテーブルのうしろに、信徒の方を向いて立つ。

歌隊は歌う(マタイ二一ノ九)

V. Dó-mi-nus vo-bís-cum.

ドミヌス・ビスクム

R. Et cum spí-ri-tu túo.

エトクムスピリトウトウオ

(司祭) 主はみなさんとともに。

(会衆) また司祭とともに。

## 交唱一

Pú-e-ri He-bræ-ó rum, \* por-tán-tes  
プエリ ヘブレオルム ▲ ボルタント  
rá-mos or-li-vá- rum, ob-vi-a-vé- runt  
ラモス オリバルム オブイアヴァルント  
Dó-mi-no, cla-mán- tes, et di-cén- tes:  
ドミノ クラマンテス エトダイエンテス  
Ho-sán-na in ex-cél-sis.  
ホサンナ イン エクセシエヤスイス

ヘブライ人の子らは、カソランの枝を手に持ち、主をお出迎えして叫んだ、「天のいと高き所にホサンナ」と。

詩篇(二三ノ一一二)および七  
一〇〇

地とこれに満ちている物、地球とこれに住んでいる物は、主のものである。それはかれがこれを海の上にすえ、これを河の上に固めたもうたからである。  
交唱一 ヘブライ人の子らはカソランの枝を手に持ち、主を

(司) 祈りましよう。主よ、願わくはこの棕櫚の枝(またはカソランその他の枝)を祝し、み民の本日肉体によつて主をたたえるために行なう所をわれらが精神性をもつて信心の限りを尽くしつつ果たし、それによつて敵に對し勝利を得、一切にまさつて哀れみの業を愛するようになしたまえ。主と共に聖靈と一体をなし、生きかつ治めたもう神であるおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

Per ómnia sǽcula sǽculó- rum. R. A-men.  
ペルオムニア セクラ セクロ ルム ▲ アメン

(司祭) 世々に至るまで。  
(余衆) アーメン。

のち三回枝に聖水を注ぎ、かつ三回香をくゆらす。

信者が棕櫚その他の枝を持参し、祝別の間手に持っている習慣のある所では、灌水および燐香を聖体拝領台の所から行なうか、あるいはミサ前の灌水式のように、司祭が聖堂内をまわりながら灌水または燐香をする。

## (2) 枝の分配

## De distributione ramorum

枝の祝別がすむと、司祭がまず祭壇の所で聖職者や侍者に、それから聖体拝領台の所で信徒に、それを分け与える。その時次の交唱と詩篇などを歌う。

お出迎えして叫んだ、「天のいと高き所にホザンナ」と。

門よ、お前たちの頭をあげよ、古えの扉よ、あがれ。榮えの王は入りたもう。

「その榮えの王とはだれか」「それは強く力ある主である、戦いに力ある主である」

交唱一 ヘブライ人の子らは、カンランの枝を手に持ち、主をお出迎えして叫んだ、

「天のいと高き所にホザンナ」と。

門よ、お前たちの頭をあげよ、古えの扉よ、あがれ。榮えの王は入りたもう。

「その榮えの王とはだれか」「それは強く力ある主である、戦いに力ある主である」

交唱一 ヘブライ人の子らは、カンランの枝を手に持ち、主をお出迎えして叫んだ、

「天のいと高き所にホザンナ」と。

願わくは父と子と聖靈とに榮えあれ。

始めにあつたように、今もいつも世々に至るまで。アーメン。

交唱一 ヘブライ人の子らは、カンランの枝を手に持ち、主をお出迎えして叫んだ、

「天のいと高き所にホザンナ」と。

Pú-e-ri He-bræ-ó rum \* ve-sti-men-ta  
プエリ ヘブレオルム ▲ ヴエスティメンタ

pro-ster-né-bant in ví-a, et cla-má-bant  
プロステルネバント インヴィア エトクラマバント

di-cén-tes: Ho-sán-na fi-li-o Da-vid;  
ダイセンテス ホサンナ フィリオ ダヴィド

be-ne-dí-ctus qui vé-nit in nó-mi-ne  
ベネディクタウス クヴァイッエ ニト インノミネ

Dó-mi-ni.  
ドミニ

### 交唱二

ヘブライ人の子らは、道の上に衣服を敷いて叫んだ、「ダヴィドの子にホザンナ。ほむべきかな主の名によりて來たる者」と。

詩篇 四六

すべての民よ、手を拍つて、神に喜びの声をあげよ。主はいと高き者、畏るべき者、全地の大王であらせられるからである。

聖福音は、もし助祭や副助祭が勤めをしていれば助祭が歌い、そうでなければ司祭が自分でする。

### (3) 聖福音の朗読

*De lectione evangelica*

ソナ。ほむべきかな、主の名によりて來たる者」と。  
 民の君たちは、アブラハムの神の民と共に集まつた。それは地の貴き人々は神のもので、かれはいと高き方であらせられるからである。  
**交唱二** ヘブライ人の子らは、道の上に衣服を敷いて叫んだ、「ダヴィードの子にホザンナ。ほむべきかな、主の名によりて來たる者」と。  
 願わくは父と子と聖靈とに榮えあれ。  
 始めにあつたように、今もいつも世々に至るまで。アーメン。

**交唱二** ヘブライ人の子らは、道の上に衣服を敷いて叫んだ、「ダヴィードの子にホザンナ。ほむべきかな、主の名によりて來たる者」と。  
 もし以上を歌う間にまだ枝の分配が終わらないなら、終わるまで詩篇などをくり返し、もし以上を歌い終わらない内に終わつたなら、詩篇の残りの節を省き、交唱および交唱を唱えて結末をつける。

**交唱二** ヘブライ人の子らは、道の上に衣服を敷いて叫んだ、「ダヴィードの子にホザンナ。ほむべきかな、主の名によりて來たる者」と。  
 かれはすべての民をわれらに従わせ、すべての国をわれらの足の下におき、その愛したもうヤコブの光榮である遺産を、われらのために選びたもう。  
**交唱二** ヘブライ人の子らは、道の上に衣服を敷いて叫んだ、「ダヴィードの子にホザンナ。ほむべきかな、主の名によりて來たる者」と。  
 神は喜びの叫びと共に、主はラツバの声と共に、のぼりたもう。主にはめうた歌え、ほめうた歌え、われらの王にほめうた歌え、ほめうた歌え。  
**交唱二** ヘブライ人の子らは、道の上に衣服を敷いて叫んだ、「ダヴィードの子にホザンナ。ほむべきかな、主の名によりて來たる者」と。  
 神は全地の王であらせられるから、ほめうたを奏で歌え。神は諸國の民を治めたもう、神はその聖なる玉座の上に座したもう。  
**交唱二** ヘブライ人の子らは、道の上に衣服を敷いて叫んだ、「ダヴィードの子にホザンナ。ほむべきかな、主の名によりて來たる者」と。

ソナ。ほむべきかな、主の名によりて來たる者」と。

う群衆は叫び  
んで、「ダヴ  
ィドの子に  
ホザンナ。  
ほむべきか  
な、主の名  
によりて来  
たる者」  
美。

(答) キリストに賛美。

Pro ce-dá-mus in pa-ce.  
プロセダムスインパセ

In nō-mi-ne Chri-sti. Amen.  
インノミネクリスティアメン

群衆は衆花や棕櫚を携え、急いで救い主をお出迎  
えし、凱旋する勝利者にふさわしい尊敬をおささ  
げる。万民口をもって神のおん子をほめたたえ、  
キリストを賛美する声は高く雲の上までも、ホザ  
ンナと響くのである。

（答）主に榮光。

交唱一

#### (4) 祝別した枝を携えての行列

*De processione cum ramis benedictis*

司祭が香をたいてのち、助祭が会衆に向かつて歌う。

安らかに行きましょう。

（会衆）キリストのみ名によりて。アーメン。

香爐を持ちを先頭に、次いでローソクの灯を持たざえる  
侍者二人を両脇に従え、包まぬ十字架を持つ人、それから聖職者たちに司祭、最後に会衆が、いずれも祝別された枝を手にして歌いながら続く。

## 十 マタイによる聖福音の朗読（マタイ二二ノ一一九）

その時、イエズスはエルザレムに近づき、かんらん山のふもとにあらベトファゲに着きたもうと、二人の弟子を遣わそうとしておせられるには、「あなたたちは向こうの村に行きなさい。そうすればすぐに、つないであるろばがその子と共にいるのを見いだすだろう。それを解いてわたしの所に引いて来なさい。もし人がいてあなたたちに何か言つたら『主がお入用なのです』といなさい。そうすればすぐに許してくれるだるう」と。すべてこういうふうになさったのは、予言者によつて言われたことが成就するためである。いわく「娘ソオンに言え、『見よ、お前の王は柔和で、牝ろばとその子である小ろばとに乗つてお前の所へおいでになる』」と。

弟子たちは行つてイエズスの命じたもう通りにして、牝ろばとその子とを引いて来ると、自分の衣服をその上に敷いて、イエズスをこれにお乗せした。おびただしい群衆は自分の衣服を道に敷き、ある人々は木の枝を切つて道に敷いた。先に立ち、あとに従つた。

## 一同

Glò-ri-a, laus, et hó-nor, tí-bi sit Rex  
グローリア ラウス エト ホノルタイ ビスクイテ レクス

Chrí-ste Red-ém-ptor: Cú-i pu-e-ri-  
クリステ レデムプトル クイ プエリ

le dé-cus próm-psit Ho-sán-na pi-um.  
レデクス プロムプシト ホサンナ ピウム

あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、  
王キリストよ、救い主よ。  
おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。  
つづましいホザンナをおささげした。

歌隊 あなたはイスラエルの王で、ダ  
ヴィドの貴い子孫であらせられる。  
祝せられた王よ、あなたは主のみ名によつて來たもう。

一同 あなたに榮えとたたえと讃れと  
あれ、王キリストよ、救い主よ。  
おさなごの美わしい群れはあなたにつ  
つましいホザンナをおささげした。

歌隊 いと高き所で天の群れが挙つて

## 交唱二

われらは死に勝ちたもうた者に向かって天使および子どもと共に、かれらに劣らず  
叫ぼう、「天のいと高き所にホザンナ」と。

## 交唱三

祝日に集まつたおびただしい群衆は、主に向かって叫んだ、

「ほむべきかな、主の名によりて來たる者。天のいと高き所にホザンナ」と。

## 交唱四

自分たちの見たかずかずの奇跡に、喜びながら下つて來た群衆は、举つて声高らかに  
神をたたえ始めた、「ほむべきかな、主の名によりて來たる王。地には平和、天のいと  
高き所には栄光!」と。

## 王たるキリストに対する贊美歌

歌隊 あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、王キリストよ、救い主よ。  
おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。

あなたをほめたたえると、  
死すべき人も、あらゆる被造物も、これに加わる。  
**一同** あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、王キリストよ、救い主よ。  
おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。  
**歌隊** ヘブライの民は詩篇を歌いながら、あなたをお出迎えした。  
見よ、われらも祈りとつましい望みと贊美歌とをもってみもとにゆく。

**一同** あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、王キリストよ、救い主よ。  
おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。  
**歌隊** あなたが苦しみに向かいゆきたもうから、かれらはあなたに贊美的の貢を奉った。  
見よ、あなたは今治めたもうから、われらはあなたに歌をおささげしよう。

**一同** あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、王キリストよ、救い主よ。  
おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。  
**歌隊** かれらはあなたのみ心にかなつた。われらの熱誠をもみ心にかなわせたまえ。

**交唱五**

詩篇一四七

善き王よ、柔和な王よ、すべての善をよみしたもう者よ。

一同 あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、王キリストよ、救い主よ。  
おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。

天のいと高き所にホザンナ」と。

みんなあなたのみ名をたたえて申し上げる、「ほむべきかな、主の名によりて来たる者。

あなたをほめたたえると、

死すべき人も、あらゆる被造物も、これに加わる。

**一同** あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、王キリストよ、救い主よ。

おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。

**歌隊** へブライの民は詩篇を歌いながら、あなたをお出迎えした。

見よ、われらも祈りとつましい望みと贊美歌とをもってみもとにゆく。

**一同** あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、王キリストよ、救い主よ。

おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。

**歌隊** あなたが苦しみに向かいゆきたもうから、かれらはあなたに贊美的の貢を奉った。

見よ、あなたは今治めたもうから、われらはあなたに歌をおささげしよう。

**一同** あなたに榮えとたたえと讃れとあれ、王キリストよ、救い主よ。

おさなごの美わしい群れは、あなたにつつましいホザンナをおささげした。

**歌隊** かれらはあなたのみ心にかなつた。われらの熱誠をもみ心にかなわせたまえ。

の水は流れる。かれはヤコブにみ言葉を、イスラエルにみ綻とおん戒めとを、告げたもうた。かれはどの国民にもこうはなさらなかつた。かれらにはおん戒めをお示しにならなかつた。

願わくは父と子と聖靈とに榮えあれ。  
始めにあつたように今もいつも世々に至るまで。アーメン。

交唱五 をくりかえす。

みなあなたのみ名をたたえて申し上げる、「ほむべきかな、主の名によりて來たるもの。天のいと高き所にホザンナ」と。

交唱六

なびく棕梠を持って、われらは近づきたもう主のみ前にひれ伏す。われらはみな贊美歌と歌とでかれをたたえつお出迎えして、申し上げる、「ほむべきかな、主」と。

交唱七

めでたし、われらの王、ダヴィドのみ子、預言者たちが救い主としてイスラエルの家來たる者。天のいと高き所にホザンナ」

「Christus vincit」(キリストは勝ちたもう……)という贊美歌、その他王たるキリストをたたえる歌(公教聖歌集一九八か二八)をも歌つてよいが、司祭が聖堂にはいる時には、最後として次の交唱を歌う。

交唱八

主が聖なる都に入りたもうた時、ヘブライ人の子らはあらかじめ生命の復活を告げ、棕梠の枝を持つて叫んだ、「天のいと高き所にホザンナ」と。民はイエズスがイエルザレムに來たもうことを聞き、棕梠の枝を持ち、お出迎えして叫んだ、「天のいと高き所にホザンナ」と。

司祭 主はみなさんとともに。

司祭は祭壇に着くと、その上にのぼり、行列の結びとして、会衆の方を向き、次の祈願を歌う。

の水は流れる。かれはヤコブにみ言葉を、イスラエルにみ綻とおん戒めとを、告げたもうた。かれはどの国民にもこうはなさらなかつた。かれらにはおん戒めをお示しにならなかつた。

願わくは父と子と聖靈とに榮えあれ。  
始めにあつたように今もいつも世々に至るまで。アーメン。

交唱五 をくりかえす。

みなあなたのみ名をたたえて申し上げる、「ほむべきかな、主の名によりて來たるもの。天のいと高き所にホザンナ」と。

交唱六

なびく棕梠を持って、われらは近づきたもう主のみ前にひれ伏す。われらはみな贊美歌と歌とでかれをたたえつお出迎えして、申し上げる、「ほむべきかな、主」と。

交唱七

めでたし、われらの王、ダヴィドのみ子、預言者たちが救い主としてイスラエルの家來たる者。天のいと高き所にホザンナ」

「Christus vincit」(キリストは勝ちたもう……)という贊美歌、その他王たるキリストをたたえる歌(公教聖歌集一九八か二八)をも歌つてよいが、司祭が聖堂にはいる時には、最後として次の交唱を歌う。

交唱八

主が聖なる都に入りたもうた時、ヘブライ人の子らはあらかじめ生命の復活を告げ、棕梠の枝を持つて叫んだ、「天のいと高き所にホザンナ」と。民はイエズスがイエルザレムに來たもうことを聞き、棕梠の枝を持ち、お出迎えして叫んだ、「天のいと高き所にホザンナ」と。

司祭 主はみなさんとともに。

司祭は祭壇に着くと、その上にのぼり、行列の結びとして、会衆の方を向き、次の祈願を歌う。

祈りましょう。

われらの王であり救い主である主イエス・キリストよ、われらは主をたたえようと、この枝を手に持ちつつ、おこそかに主の贊美を歌つた。願わくはおん慈しみによつて、この枝を持つてゆくどこにおいても、おん祝福の恵みをくだし、おん右手で悪魔の不義と欺瞞とを空しくさせ、主の救いたもうた人々を守りたまえ。おん父なる神と共に聖靈と一体をなし、世々にわたつて生きかつ治めたもう者よ。

それから紫色でミサ聖祭が始まるが、ご受難の朗説の時には、もはやみな前のように棕櫚を手に持たない。

### ミサ聖祭 De missa

指定参詣聖堂——ラテランの聖ヨハネ聖堂

紫色

このミサを、これに先立つ枝の祝別と行列をせずに行なう場合には、ご受難節中の各日のように階段のもとでする祈りを唱え、枝の祝別と行列をした場合には、司祭が紫の祭服に着かえて祭壇に帰り、階段のもとでする祈りを略してすぐそれにのぼり、香をくゆらし、それから入祭唱を唱える。

### 入祭唱（詩篇二二ノ二〇、二二一）

主よ、おん助けをわたしから遠ざけたもうな。わたしをかえりみて守りたまえ。わたしを獅子の口から、わたしの弱さを野牛の角から、救いたまえ。  
 （詩篇二二ノ二）神よ、わが神よ、わたしをかえりみたまえ。なぜ、わたしを捨てたもうたのか。わたしの罪のために、わたしは救いから遠いのである。  
 主よ、おん助けをわたしから遠ざけたもうな……

### 入祭祈願

全能永遠の神よ、主は人類に謙遜の模範を与えようと、われらの救い主を人とならせ、十字架にのぼらせたもうた。願わくは、その忍耐のみわざをわれらの身に効果あるようになし、われらをそのご復活に与かるに足る者となしたまえ。主と共に聖靈と一体をなし、世々にわたつて生きかつ治めたもう神であるおん子、このわれらの主キリストによりて。

きょうはこのほかの集祷文は唱えない。